

どろじん

第 22 号

発行日 昭和63年12月10日
(毎月 10日発行)

編集発行

北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS 南麻生 308号
TEL (011) 747-0217

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H.S.K. 通巻 200号

昭和63年 初冬号

第8回

腎バンク登録者拡大全国一斉街頭キャンペーン報告

〔特 集〕 腎移植を受けた方々の手記



北海道腎臓病患者連絡協議会

結果報告

第八回腎バンク登録者拡大(10月9日)

全国いっせいで街頭キャンペーン

昭和六十一年度より厚生省が定めた「腎移植推進月間」に呼応し、当会もこの「月間」をより盛り上げ、腎バンク登録者の拡大をめざす啓発運動などの道民的運動を展開しました。現在、北海道腎バンクの登録者数は、九、七七八名(六十三年九月末現在)で、その中から死体腎移植がまだ行われていない現状です。

この様な状況の中、十月九日、各ブロック毎に、患者・家族・医療関係者・行政関係者・ボランティアなどが参加し、チラシを配布するなどして、腎バンクへの登録を呼びかけました。以下、各ブロックの報告をします。

札幌腎臓病患者友の会

札幌では、大通三丁目を中心に、患者・家族・医師・看護婦・道、市関係者・道難病連など六十名ほどが、午後一時より約一時間、道行く市民に呼びかけました。時間内に、チラシ、ティッシュ二、五〇〇、風船四〇〇、トゥスピック五〇〇など配布、また例年通り、腎臓病相談、血圧測定を、医師・看護婦の協力で行いました。登録者は、十二名と昨年より、

少なめでしたが、当日の様様をテレビ等で報道されました。

(報告 芳賀)

小樽後志地方腎友会

小樽では、駅前長崎屋デパート前にて、患者・家族・医療関係者等二十名が参加しました。チラシ、ティッシュ一、〇〇〇、尿試検紙二〇〇、風船一〇〇〇など配布し、ハンドメガホンによる呼びかけを行いました。

今年は、市内で一番の通行量の

多い所で行い、チラシは足りないくらいでした。また例年通り、尿試検紙の反響が大きかったです。登録カードも五〇枚配布しましたが、その場での登録者はいませんでした。

今後、血圧測定なども実施したいと思っています。

(報告 津田)

旭川地方腎友会

旭川では、一条七丁目丸井デパート前で、患者・家族・医療関係者等二十三名が参加、チラシ、ティッシュ二、〇〇〇、風船、尿試検紙五〇〇など配布しました。

登録者は、十二名でした。なお、尿試検紙を欲しがることが多かったでした。

(報告 大石)

稚内地方腎友会

稚内では、総合福祉センター前で、患者・家族・四名で行いました。チラシ、ティッシュ一五〇ほどを配布しました。

好天に恵まれ、出足が良かったと思います。

なお、九月二十五日市で行うふれあい広場にも参加、チラシ、テ



イッシュュの配布を行いました。

(報告 乙竹)

留萌地方水無人腎友会

留萌では、今年初めて二ヶ所所で実施しました。留萌市では、金市館前で、羽幌町では、沿岸バス会社前で、患者・家族・医療関係者等三十四名が参加、チラシ、ティッシュ、〇〇〇、風船一〇〇、尿試検紙二〇〇枚など配布しました。また、血圧測定も二ヶ所所で実施しました。

初めて二ヶ所所で実施しましたが、天気にも恵まれ、参加者も予定通り集まりました。



特に羽幌では、施設誘致問題もあり、来年以降も根気よく続けていかなければならないと思えます。

(報告 豊島)



道南腎臓病患者連絡協議会

函館では、駅前ポニーアネックス周辺で、患者・家族・医療関係者等二十六名が参加、チラシ一、三〇〇、ティッシュ一、五〇〇を配布しました。

登録者が、当日四名あり、また後日保健所への問い合わせ、患者の家族、職場の仲間からの提供の申し出など大きな成果がありました。

今年には保健所の職員が協力してくれ、今後の運動の中心となる様期待しています。

(報告 中野)

苫小牧つくし会

苫小牧では、駅前サンプラザ前広場にて、患者・家族・医療関係者等三十八名が参加、チラシ、ティッシュ、〇〇〇ほどを配布しました。その場から登録カードを持つていった人が二名でした。

来年より、広報車を借り入れ、キャンペーンをやっている近所を回る計画をしています。

(報告 廣岡)



室蘭地方腎友会

室蘭市、登別市、伊達市の三ヶ所で、患者・家族等三十四名が参加、チラシ一、二〇〇、ティッシュ五〇〇、風船四〇〇、尿試検紙三〇〇、トックスピック三〇〇配布しました。

登別では、市関係者、中央ライオンズクラブ、室蘭市では、市関係者、議員などの協力を得、かなり献腎について理解されつつある様に思われました。

登録者は、当日十名、後日追加六名でした。

(報告 佐藤)

十勝地方腎友会

帯広では、藤丸デパート前と、イトーヨーカドー前の二ヶ所所で、患者・家族・医療関係者等四十二名が参加、チラシ一、二〇〇、ティッシュ一、〇〇〇、風船一〇〇、尿試検紙三〇、トックスピック一〇〇を配布しました。

国会議員をはじめとする議員の方々、市関係者、難病連などの協力を得ました。また看護婦さんの協力で血圧測定を行い好評でした。今回は、テレビ、ラジオ、新聞

に報道してもらいかなり宣伝できました。
(報告 新倉)



釧路地方腎友会

釧路では、イトーヨーカドー釧路店前で、患者・家族等二十二名が参加、チラシ一、一〇〇、ティッシュ一、五〇〇、風船二〇〇尿試験紙一〇〇配布しました。登録者は七名、一名が持ち帰りました。

今年、登録カードを目につくようにしたので良かったが、さらに来年は机など用意して楽に記入してもらえそうな方法を考えたと思います。(報告 橋本)

北見地方腎友会

北見では市内の商店街四ヶ所で、患者他十九名が参加、チラシ五〇〇、ティッシュ一、〇〇〇、風船一〇〇〇など配布しました。

市、保健所などの協力を得、道行く人も素直に受け取ってくれましたが、残念ながら、登録を申し出る人はいませんでした。

(報告 西木戸)

オホーツク腎友会

網走では、金市館前を中心に、患者・家族十九名が参加、チラシ、

ティッシュ、風船、尿試験紙一、〇〇〇を配布しました。

配布枚数は、昨年までの二倍でしたが、一時間半ほどで終了できました。

登録者は、一名でしたが後日九名程登録しました。

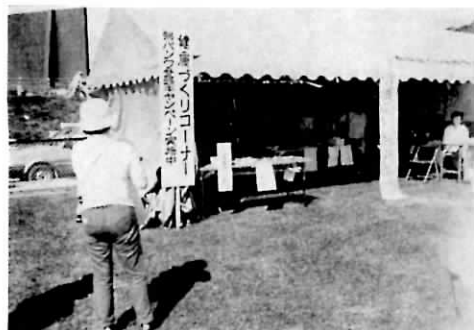
(報告 原田)



岩見沢腎友会

十月の秋晴れのもと腎バンク登録者拡大街頭キャンペーンを、昼下りの買物客で賑うダイエー岩見沢店前で行いました。

この日会員と家族及びCAPDの方の応援をうけ、総勢二十名が、



午後一時に集合し準備を整え、岩見沢市長代理の中村市民部長さんにも応援をいただきながら、凡そ一時間半にわたり、市民の皆さんに千組のチラシ、風船、ティッシュペーパーと、尿試験紙を配りましたが、中には透析患者であることを知ると温かく声をかけて下さる市民の方もあり、小さな患者会でありますが、全国の皆さんと同一行動を取ったことに満足感を味わいました。(報告 山田)

浦河日赤腎友会

浦河ブロックには、大きな都市部がなく、人の密集する場合がな

かなか得られず、今回は、えりも町で、十月二日行われた「海と山の幸フェスティバル」の会場で

「健康づくりコーナー」と一緒に実施しました。患者・家族・医療関係者等三十二名が参加、チラシ二〇〇、風船一〇〇、尿試検紙二〇〇など配布、血圧測定、栄養指導（味噌汁の塩分測定）など行われました。

今年初めてのためか、無関心の人も多くいましたが、尿試検紙などには、興味・関心を示しました。今後はまず病気について理解を

深めてもらい、会員家族の登録から進めていきたいと思えます。

（報告 小林）

根室地方腎友会

根室では、ファミリーデパート前で、患者十二名参加、チラシ、ティッシュ五〇〇、風船二〇〇を配布しました。

初めてのキャンペーンで、ただチラシとティッシュを配っただけになってしまいました。

来年からは、市との関係、報道機関の呼びかけなど、働きかけた

いと思えます。

（報告 福沢）



第二十五回 道腎協ブロック会議開催される

十月二十九日、午後四時より札幌のクリスチャンセンターにおいて、役員・役員代理・オブザーバー・事務局員合計三十二名により、今年度第一回のブロック会議が開催されました。

開会后、会の先頭に立って活動

し残念ながら亡くなられた、道腎協の役員及び同じ透析患者の仲間逝去を悼み全員で黙祷を捧げ冥福を祈りました。

道難病連の理事会のために遅くなり、会議が始まった三十分後の所で岩崎会長がかけつけ早速挨拶

がありました。

「来年度は、全国的に我々難病、透析患者の特定疾患に指定されることを、適正化という事で、見直すという厳しい状況にある」

「この厳しい状況の時にこそ、我々患者が一致団結し、医療・福祉

を取りまく厳しい環境に立ち向って行こうではないか」と力強い言葉でありました。
議事は釧路腎友会の橋本会長を議長に選出して最初に報告事項から進んでいきました。

一、報告事項

(一) ブロック活動報告

一九ブロック中、主なことのみ報告

○留萌 羽幌への透析施設誘致について、会員の皆様の支援・協力が必要

○室蘭 透析施設がほぼ満床のため、室蘭市立病院へ増床請



願準備中

○釧路 透析施設が満床に近い状態

施設拡充を道レベルで訴えて欲しい

腎疾患総合対策が早期に実現するよう運動して欲しい。

○浦河 病院に休憩室がなくて困っている。

(一) 全腎協運営委員会報告

全腎協幹事会報告

別文で掲載

(二) 道腎協前期活動報告

① 八月八日、J.R・航空運賃・

有料道路料金割引制度が内部障害者にも適用されるように、



との請願が道議会の本会議に

おいて採択されました。

② 機関紙「どうじん」二十一号について

今回から活字を大きく読みやすくしました。

二十二号は十二月中旬発行予定

③ 臓器移植推進請願署名

短期間であったが全道で六千八十五名でした。

④ 第八回腎提供登録キャンペーン

十月九日、全道的に晴天のもと実施されました。

ティッシュ一五、〇〇〇個、

風船三、三〇〇個、尿試検紙

二、九〇〇枚、チラシ一九、〇

〇〇枚、糸ようじ一、〇〇〇

セットが全道で配布され参加

人数四百余人で行われました。

(四) 前期会計報告

〃 会計監査報告

以上、前期の活動報告、会計監査報告は若干の質疑の後、全会一致で承認されました。

夕食後討議事項が協議されました。

討議事項は「規約改定」・「第十八次国会請願署名」「医療・福

祉をめぐる現在の状況」等が活発に討議され、午後八時無事会議は終了しました。

尚、翌三十日は、中央区南三条

西十二丁目の教育会館で午前九時から医療講演会が開催されました。

テーマは、「長期透析における骨の合併症」「CAPDの現状と

今後の展望」の二題で札幌北クリ

ニックの今忠正院長先生を招聘して行われました。

九十四名の患者・家族・スタッフが参加し質問時間が大部オーバーする程の盛会でありました。次

号の「どうじん」に講演内容を掲載する予定です。



第五十四回全腎協幹事会報告

全腎協幹事 札幌腎臓病患者友の会

川 村 隆 志

去る十月二十二、二十三日の両日に渡り、東京池袋に於いて第五十四回全腎協幹事会が開催され、未熟な私ではありますが、北海道の代表として参加させていただきました。

初日は、昭和六十三年度上半期

活動内容について次の報告がありました。

国の腎不全対策について昭和六十四年度予算で、昭和六十三年予算額に二億三千万上乗せられて要求が出されていること。その内容として腎臓病の予防対策、長期透析者の合併症対策に加え、新しく腎不全医療研究費が要求されていることなど、従来の人工透析、移植中心の腎対策から幅広い腎不全対策に変わりつつある内容となっていること。更に腎不全対策推進会議報告書が厚生省宛へ提出されたことの報告がされました。この報告では、腎不全予防対策の具



体的方策、人工透析の合併症対策、患者の高齢化に伴う医学的対策、そして腎移植の推進方策という点とで、これで全腎協が「総合対策の確立」として、長年運動を進めてきた課題の多くの重要な部分が含まれている内容でした。

陣情・請願活動については、まず、臓器移植に関する請願が、約一ヶ月半という短期間であったにもかかわらず、全国会員の熱い思いをこめた取り組みで、二十五万人を越す署名が集められたこと。また第十七次国会請願は六十三万人余の署名をそえて二月国会に出され、内閣へ送付されたこと。

つづいて十八次国会請願署名では、「新技術、新薬の早期使用の為の条件整備」を新たに盛り込んで提出されるということ。

JR運賃の身障者割引対象拡大運動では、政府の回答で、この制度は、利用者の負担によって実施されるものである為、適用範囲の拡大は、考えていないということ。このJR交渉については、今後とも各社交渉を積み重ねていかなければならないとのこと。以上の内容が、上半期の活動内容として報告

されました。

二日目は、主に勉強会という点とで

- 内部障害者とは何か。
- 脳死臓器移植について
- 医療・福祉をめぐる情勢について

て
○医療費、年金問題について
それぞれ話し合わせ無事二日間

の日程を終了しました。今回初めて、参加していただき、それぞれの県の代表者方が熱意を持って話されていた態度については、自分自身たいへん教えられることがたくさんあり、これからの私にとつて、大きな指針となると思います。

以上で私の参加報告を終了します。

第一三四回

全腎協運営委員会報告

全腎協副会長 苦小牧つくし会

廣岡達夫

た。

報告事項に関連して、JPC、全難連等との関係について引きつぎ協議する事となりました。

討議事項としては

一、「月間」についてはキャンペ

ーンは大体において成功したと

確認され、来年度は全腎協の基

本として登録者を増やす事、腎

バンクなど登録システムを拡充、



十一月五、六日東京五反田の全社連会館で、油井会長以下十四名の運営委員が出席して開かれまし

臓器提供思想の定着の運動であると言ふ事を確認し、具体的行動については、チラシ配布以外は今後とも話し合い各県の活動経験の良い点をとり入れていくようにする。

二、組織率向上についても種々の意見が出たが、組織部長、事務局が次回運営委員会に提案する事になり、公益法人研究会の研究結果も報告する事となりました。

神奈川腎友会の全腎協幹事会へのオブザーバー参加問題については、佐々木組織部長が非公式に接触していたものを公式に全腎協を代表し引きつづき接触をはかり、両会の代表の話し合う機会を設け、その結果を見な

から出席の是非を検討する。

三、事務局体制についても、種々意見が出たが、まともらず次回運営委員会に会長の意見を出す事になり継続審議となりました。

四、年金制度

五、来年度予算要求運動

六、臓器移植・脳死についての会員の意識調査については、それぞれ相当役員を決めて行う事に決定し、その他の事項で東大PRCのシンポジウム(十二月二

日午後六〜八時、東大構内)に全腎協の代表シンポジストとして最上運営委員を推せん、決定、JPC全国交流会出席者を決め、又事務局員冬期特別手当は原案通り決定し予定時間を三十分近くオーバーして終了しました。



特集 腎移植を受けた 方々の手記

『感謝と感激』

札幌 大西 政 弘(三十六歳)

(透析歴十一年 腎移植後三年)



を得なくなりました。

移植、そんなチャンスは自分にはない、親、兄弟からもらえる訳がないし死体腎であればなおさらの事無理だ、生きる為、生きていく間透析をし、毎日を送らなければならぬと考えていました。ところが透析も十年を迎えようとした頃だったろうかチョットしたきっかけがもとで移植について真剣に考えるようになり、なんとしても移植したい、もう一度健康な体になりたい、そう思い続けるようになり、とうとう夢が叶う事になりました。

六十年十一月十九日、母をドナーに東京女子医大で移植、十一月九ヶ月、千七百四十二回の透析に別れを告げました。それはたとえ何年生着するか、わからないにしてもとても嬉しい事です。

二十歳の時、急性足の親指が痛く整形受診、尿酸が高いと言われその日に入院、絶対にいやだと思っていた透析も三年後には諦めざるを得ない事になりました。

母から腎臓をもらいまだ麻酔が効いていて、もうろうとした中、

「術後六分で尿が出た」と耳に入
った時は「とうとう移植したんだ
成功したんだ」と感激しました。
しかし五日後に心配していた急性
拒絶反応出現、再び透析に戻らな
ければならなくなりました。でも
先生方に「必ず腎臓が働くので希
望を捨てないで」と言われながら
術後の苦しい透析を頑張りました。
そして二週間ほどたったある朝な
んとなく尿意があり排尿、なんと
九十ccの尿が出たのです。その時
は気が狂ったように喜びました。
それ以後日増しに尿量は増え続け、
軽い拒絶反応はあったもののなん
とか乗り切り退院する事ができま
した。

忘れてました健康な生活を、二
度と自分の人生にないと思ってい
た、それが十二年ぶりに健康人の
普通の生活を体験することができ
るようになったのです。本当に感
激し感謝で一杯になりました。小
便の出る事がこんなに素晴らしく、
考え方、また行動までも変えてし
まうのです。たしかに移植すると
なんの不安もなくすべてがベスト
と言うものではありません。関連
する病気、また先々のこと、検査

データとにらめっこ、そして一喜
一憂、精神的にも色々あります。
初めは三年位、移植腎がもてば、
そして三年が来るとまだあと五年
位はと、段々欲が出てきてこれだ
けもてば良いなどと言うものでは
ありません。しかし、現実的には
そうもいかないだろうと思うと残
念でなりません。今はこの二度と
ない時を利那主義で生き、透析に
再び戻った時に、あれもこれもと
後悔しないよう日々送るようにし
ています。

透析も以前からみると医学、そ
の他の進歩に伴い楽にできるよう
になりました。しかし、やはり厳

母からもらって移植

千歳 中口 博 昭(三十七歳)

(透析歴五年一ヶ月 腎移植後二年五ヶ月)

しい制約が必要とされます。腎不
全は根本的治療として唯ひとつ、
移植しかありません。移植に成功
すると言うまでもなく学生も、そ
して私達もフルタイムの行動が可
能です。そして好きな物を沢山食
べたり、存分に飲んだり運動など
もすべてが許されるのです。健康
に変えられるものなど何ひとつな
く、健康が人生を楽しく充実させ
てくれるものではないでしょうか。
今後一人でも多くの皆さんに腎
臓移植についての理解を深めて頂
き、沢山の人が移植して透析以前
の元気な体に戻れるよう心から願
うものです。

のことか当時の私には、透析等の
知識は皆無でした。

左手にシャント手術を受け、透
析療法を開始しました。透析を一
生続けなければならぬと聞いて、
不安と恐怖に落ち込んで大ショッ
クでした。千歳から札幌まで約五
年間、透析に通院し、最初の二年
間は週一回、次の一年は週二回、
そしてあと二年は週三回となりま
した。この間、食事療法(私の分
は、減塩正油でうす味にして皿に
取り、その後正油、食塩、調味料
等で味つけし、他の家族の分を作
る、レモン汁をかける、焦めをつ
ける、香辛料等で味つけする、女
房が栄養士さんの指導を受け、食
事を作ってくれました。)水分制
限、塩分制限と生活は規制され、
体力も落ち、職場の朝礼で十分位
立つのが、やっとでした。デパー
トの階段は二階ぐらい上ると、き
つくてしゃがみ込む状態でした。

ちょうどその頃、市立札幌病院
に、腎移植センターが出来た事を
新聞で知り死体腎移植を希望し、
登録に行きました。このことを九
州の母に電話すると、数日後、母
から「私の腎臓一つあげるから手



術しなさい。」と、電話がありました。

でも母の体に傷をつけるのが辛くて、「手術する」と即答で、きませんでした。すると今度は、

叔母と看護婦をやっている妹から、「せつかくお母さんが、あげると言っているのだから、もらうて元

気になりなさい。」と電話があり、大変嬉しく思いました。移植手術

可能かどうか、さっそく市立札幌病院の平野先生に、相談に行きました。

組織適合検査のため、福岡県に母に來道をお願ひし検査を受け、手術可能となり話はト

ントン拍子に進みました。しかし、頭の中では母の腎臓一つ摘っても、

大丈夫だろうか？二つある腎臓の一つを摘っても、もう一方の腎臓

で十分生活できると、聞いていました。が、「そのために短命にな

ったという例は一人もない。」と先生に聞き、少し安心しました。

昭和六十一年七月十日、母六十四歳、私三十五歳

母も大丈夫だと聞き、安心しました。この時母に何と言っているのか、言葉で言い現わしません。二

人共、移植後の経過は順調でした。腎臓を提供することを決心した

母のたいへんな不安と勇氣、そして、度胸が必要だったにちがいないと思う。

母は十四日後に退院し、数週間自宅にいた後、九州の方へ帰りま

した。私も移植後五十一日目に退院し、次の日から出勤しました。

母から腎臓をもらい移植手術を受けて、早くも二年四ヶ月がたち

ました。シクロスポリンという免疫抑制剤で、拒絶反応もありませ

んでした。しかし、薬の副作用として、毛深くなり、顔も丸くなり

ました。が、薬の量が減ると少しづつ元に戻ってききました。

透析生活のとき比べ、今は普通の人と変わりなく生活でき、考え

方も変わってききました。見る物も違つて見えます。花はより美しく、

木々も生き生きとし、空気さえもおいしく感じます。仕事も余暇も

生き生きと行えます。体力維持のため年をとっても出来るスポーツ

と思ひ、今年からゴルフを始め

ました。これも移植手術に携わっていた

だいた先生方、看護婦の皆さんのお陰と感謝しております。母への

感謝の気持はとも言葉では、言い尽くせません。

将来の夢として、①現在小一の長男がいますが、もう一人女の子

がほしいと思います。②以前は、航空機備士として勤務していま

したが、透析生活に入ってからはずたが、透析生活になりました。できれ

ばもう一度、航空機整備士として

苦しい日々から腎移植へ

札幌 藤井 宮 子

(義人君 透析歴四年十一月 腎移植後 五ヶ月のお母さん)

今年の七月十四日、長男(現在二十歳)は北海道腎移植センターに於いて腎臓を移植し、一度の拒絶反応も起きることなく約四ヶ月が過ぎようとしています。

当時、私共は大阪に住んでいました。が、長男が二歳の誕生日を迎える頃から、何か様子に異常を感じ、小児科の医師は心配無いでしょう、とのことでしたが、一応念

さんが腹膜灌流というものを朝八時から夕方五時まで「痛いよー、助けてー」と言いながら受けて居られました。お母さまは子供を見るのがつらいからとその間は自宅に帰られます。その光景を見て、我が子の行く末を見た思いで、絶望のどん底に落ちました。

長男は生後数ヶ月の頃、風邪気味で最初に診察して頂いた開業医では軽い風邪とのことで安心していました。しかしどうも様子が変わったので小児専門の病院に連れて行きました。時にはもう手遅れとのことでしたが約二ヶ月の入院で何とか命はとりとめることが出来ました。その時数種の抗生物質による治療を受けましたが後に、その抗生物質の副作用による腎不全とカナマイシンによる感音性高度難聴ではないかと言うことでした。検査をして頂いた病院での看護に身も心も傷ついた私は現代医学に背を向けて、自然医学、漢方療法を試してみたく、手探りの状態ながら、その方向に歩み始めました。

子供が二歳半の時、当時主人が単身赴任していた札幌に参り北大

に定期的に検査に通う様になり、食事療法を勧められまして、出来るだけ腎臓に負担のかからない食事を作るために栄養士の学校の通信教育を受け、又自然医学による食養も実施しました。その他に、針・整体等の治療もしながら言語訓練に通う毎日でした。しかし、子供が十五歳の春それまで何とか頑張ってきたが限界に達し、とうとう腹膜灌流に入り、私は力尽きて、病院の廊下に座り込んで仕舞う有様でした。

半年後、透析導入、十五歳というのに幼い頃からの腎不全にて成長も悪く、小さい身体で苦しみに必死に耐えている姿を見るのは本当につらく、このまま親子で死ぬたらどんなに楽になるだろうと思った程でした。

発病からその当時の事は今でも思い出すことさえつらく、今こうしてこの原稿を書いていながらも胸が痛みます。

体調も最悪の状態で、少しでも元気な身体にしてやり度いと家庭の事情もありましたので暖かな岡山に子供と私と二人で出向きました。季候のおだやかな土地で一日一

日と元気になり、体力も徐々に付いて参り、二年半が過ぎて、六十二年の夏、体力に自信のついた本人の希望で札幌に帰り、市立札幌病院で透析をして頂くことが出来、その年の十二月移植をしたいと本人が希望しましたので、腎移植セクターの平野先生に相談をいたしました。翌年七月に移植の運びとなりました。

どんなにつらく苦しい時でも涙一つ見せず、いつも笑顔を絶やすことなく、むしろ囲りの者を励ましてくれ、そんな子供に支えられ、教えられて、多くの友に助けて頂き今日まで歩み続けられたことを謝して居ります。

まだ免疫抑制剤による副作用の

二度の死体腎移植手術を受けて

浦部京子

私は今年の八月で二十七歳を迎える主婦三年生です。同時に二度めの死体腎移植手術日からまる二年を迎える予定です。手術日が誕生日の前日というのも、設定され

問題、感染症等、他にも心配なこととはございますが今は腎移植セクターの平野先生にすべてをお委ねして、やっと安息の日々を過して居ります。又、活き活きと暮らしている子供の姿を見て移植の出来ましたことを家族でしみじみと喜んでいきます。

腎移植セクターのスタッフの皆様にはお世話になりました。

特に市立病院透析病棟の婦長様始めスタッフの皆さまの暖かい看護と励ましを頂きましたこと心より感謝いたして居ります。

これからも道腎協、腎臓バンクの皆様と共に腎臓病患者の生活向上目ざして歩ませて頂き度いと願って居ります。

たテレビドラマのようで、うそっぽいのですが、これはノンフィクションなのであしからず。

現在、私は夫と二人住まいです。夫は三十一歳。長身でやせ型だが

見ためより、いたって健康です。夫とは私や高校卒業後、就職先で知りあいました。その頃の私は、まだ人工透析さえも受けていなくて、現状維持のための通院を続けていました。

ところが、彼とつきあい始めて約一年後、私の容態が急変し、私は人工透析の意味もろくに知らぬまま透析生活が始まったのです。シャントの抜糸も済んでいなかったのに、傷の痛みと血管の痛みと針を刺される時の痛みとで、枕をぬらす日々が続き、自分を悲劇のヒロインにしてしまったのです。

「もう彼との仲もおしまいね。どうにでもなれ！」と、この時の私は投げやりな気持ちでしたが、彼のほうは逆に「守ってあげなければ」と思ったそうです。これを機に私達の仲は急速に発展し、現在にいたっているわけです。

夫の理解と協力があつたから、二度の腎臓移植手術を受けられたわけで本当に私はしあわせものだ。今私の横で寝ころんで本を読んでいる夫とあの時の夫はまぎれもなく同じ夫なので、私はいつになってもあの時の感謝の気持ちを忘れ

ないようにしていかなければと思います。

最初の移植手術は、人工透析を開始して二年後の昭和五十九年二月の雪の日におこなわれました。

腎移植の登録先である北里大学病院から連絡があつた日、透析日だったので私はいつものように会社を早退し、透析施設に向かつていました。私が透析室にはいるなり、婦長さんは緊張した声で「いま、北里大学病院からね……」と私の

耳もとでささやき始めました。私は心の中で「やったあ！天は私を見離していなかったのね。」と叫んでいました。この時の私は手術に対する不安なんて全然なくて、待ちこがれていたものが来たという喜びだけで頭の中はいっぱいだったので。だから私は両親にも相談せず、一人で決めてしまい、あとで「こんなだいなこと相談しなくちゃだめじゃないの。」と言われてから、事の重大さに気づいたほです。まったく自己中心的な性格がまる出です。

透析終了後、父の運転する車でかけつけた時には、夜なかの十二時が過ぎていました。最終の血液

検査も無事パスして私は移植グループの先生たちと会い手術の説明を受けました。

「免疫抑制剤でシクロスポリンという新薬を使ってみませんか。」との先生の言葉に私は一瞬とまどってしまいました。当時、この薬は保険適用されてなくて、北里大学病院での臨床段階にもおよんでなかったからです。結局、新薬を使わず、あとで後悔するよりいい

と思い、私は承諾書を書いたので、す。シクロスポリンは油っぽくて、ビタミン臭さとアルコール臭さがまざつたような味です。飲んだ直後、口の中にその味が残り、はき気の症状まであらわれるほど私には飲みにくい薬です。これをすつと飲まなきゃならないのね、と思つたのは私だけでしょうか。

術後の不安定な時期を過ぎ、透析離脱から三ヶ月が経過して、やれやれ一安心と思っていたら、いつものまにか私は重い肺炎にかかっています。個室で絶対安静となつた私に酸素テントがかぶせられました。レントゲン検査の結果、肺に白い影がうっているので、翌日のレントゲン結果で肺の組織検

査をする予定でした。この検査は肺の組織の一部を傷つけることになるので出血しやすく、生命の危険もあり、病院側としてはなるべくやりたくない検査だが、原因がわかれば治療方法も違ってくるかもしれないので、どうしても必要な検査だそうです。ところが翌日のレントゲン写真では、肺の白い影がほとんどなくなっているのに組織検査は急ぎょ中止になりました。それから二、三日後に私は個室から出ることができました。

結局、肺炎の原因はわからず、慢性拒絶反応の症状がひどかったので、術後十ヶ月で移植腎を摘出しました。それまでは微熱が続き、血尿のためにヘマトクリット値が低くなり、立ちくらみや目まいがひどかったのに、摘出手術を受けたら、その症状が消えて逆にスッキリしました。腎提供者には悪いと思うが、もっと早く摘出していればよかつたと思つたくらいです。摘出前は未練がましく、もうすこし様子をみてからなんて思つたものです。

移植腎摘出から五ヶ月後の昭和六十年春に再び移植の連絡を受け

ましたが、摘出するまで飲んでい
たブレドニンの副作用で股関節の
痛みが激しく、核医学検査結果も
よくなかったため、この移植の話
は見送ることになりました。家族
は私が透析にもどってから安定し
てきたばかりで、移植しても成功
するとは限らず、またあのブレド
ニンを飲むことになるので、最悪
の場合には車いすの生活になりか
ねないとの意見でした。

当時、北里大学病院外科助教授
の内田先生からの電話では「まだ
若し、チャンスはいくらでもあ
るからあきらめないで希望をもっ
てがんばってください。」とはげ
ましてくださり、私は先生のあた
たかい心に胸がいっぱいになっ
たと同時に、移植を見送らなければ
ならないというくやしさとで、涙
がとめどもなくあふれてしかたあ
りませんでした。しかし私が悲し
みから立ち直るまでにそれほど時
間ばかりませんでした。就職先
で知りあってからずっとつきあっ
てきた彼との結婚の準備のため、
悲しんでいるひまなんてなかった
のです。

それから一年後、私達はみんな

の祝福の中で結婚式をあげること
ができました。三カ月が過ぎ、夏
休みを利用しての旅行を明日にひ
かえた日、私の誕生日の二日前で
もある。その日の夕方、三度めの
移植の連絡を受けたのです。うれ
しい反面、私は迷っていました。
結婚生活に慣れはじめてきた頃だ
ったことと、股関節の痛みがまだ
続いているということが理由でし
た。透析施設の先生の意見は「今
はブレドニンを飲んでいないので
少しづつ治ってくるでしょう。危
険なかけはあまり勧めたくありま
せん。」とのことでした。夫の意
見は「無理してやることはないが、
最終的には本人が決めること。」
であると言い、実家の両親も賛成
してはくれず、私は限られた時間
の中で最終的な決断をくださなけ
ればなりませんでした。

いま受けなければ、もういつに
なるかもわからない。これが最後
のチャンスだ。もしこれでダメだ
った場合は、足のためにも二度と
移植手術は受けないことにしよう
と覚悟を決め、周囲の反対の中、
私はあえてこの危険なかけに挑戦
したので。いま思うと、旅行の

前日に連絡があったというのも偶
然でなく、その時がやってきたと
いう気がしてなりません。一日早
く出発していたら移植を受けられ
なかったのですから。そして翌日
の未明、手術は開始されました。
この一カ月前にも私は移植のチャ
ンスがあり候補にあがっていたそ
うですが、家族の承諾を得られず、
私の耳まで届くに至らなかったそ
うです。私は思うのです。人々の
頭上には、いつでも手の届く所に
しあわせの星が輝いていて、それ
は他人が届けてくれるのではなく、
自分の力でつかむものなんだと。
カッコつけるなど言われそうです
が、私の今の気持ちです。

術後二週間が過ぎた頃、突然の
けいれん発作で意識不明になり、
呼吸停止もおこしました。あとで
母から聞いておどろいてしまいま
したが、たとえ意識は回復しても半
身麻痺の心配があるので、覚悟を
しておいてください。と先生より
言われていたそうです。原因は腎
機能が完全でなく、血圧が異常に
上昇したためとのことですが、そ
ういえば数日前より高血圧で頭痛
や目まいがありました。意識もう

ろうの中で、誰かが私に呼びかけ
ていたのをうっすらと記憶してい
ます。その中で私が思ったこと……

「遠くのほうで声が聞える。あ
れっ。からだが動かない。なぜな
の。私は死ぬの。死ぬってどうい
うこと？でも人の声が聞えてる。
何か答えなければ本当に死んでし
まう気がする。やりたい事たくさ
んあってまだ死ねない。死んでた
まるか。」

私は呼びかけに答えようと、自
由のきかないからだをやっとの思
いで動かしたり、一言でもしやべ
ろうとしたのです。意識が回復し
ても、しばらくは高血圧による頭
痛に悩まされたが、術後一カ月を
少し過ぎて、やっと透析から完全
に離脱できたのです。私が半身麻
痺にならずに済んだのは、一人の
ために、それぞれの診療科が協力
して治療にあってくれたおかげで、
病院の治療システムにおどろくと
ともに、とても感謝をしています。
その後、血圧も少しづつ落ち着き、
心配していた拒絶反応も起こらず
無事に退院できました。退院後も
感染症で二度ほど入院しましたが、

いずれも移植腎には影響がありませんでした。二度の移植手術で学んだことは、普段からの自己管理が大切だということ、生命の危険がともなう場合もあるということとです。

ところで私の今の状態ですが、データ的には血中クレアチニンが0・8で健常者とかわらぬ値を示していますが、身体的には良いとは言えず「左右大腿骨頭壊死」との診断で、特に右側が悪いとのこととです。これは最初の腎移植で大量に使用したブレドニンが原因で、まだ手術の段階でなくこのまま様子をみていくそうです。ああもう手術はたくさんという気持ちです。そしてもう一つは、二度めの腎移植でけいれん発作を起こしてから軽い脳波の乱れが続いていることで、この二つの問題が解決すれば言うことはないのですが。

話はかわって、シクロスポリンが用いられてから、まだそれほど期間がたっていないというのに、もう新しい薬があらわれ、現在は実験段階とのこと。ある国では埋め込み型の人工腎臓もできたとか聞きました。医療の進歩の早さに

は本当におどろかされてしまいました。人々の理解力がそれに追いついていかないために、脳死についての理解もなかなか浸透していかないのではないかと思うのですが。他の人はどう思っているのかしら。結婚後まもなく死体腎移植をして、まる二年を迎える私にとって今気になることは、移植を受けた者の妊娠や出産の現状の問題点です。これからはこのことも理解していかなければと思っているのです。こういう情報を各方面でどんどん流していただければありがたいと思います。

最後になりましたが、移植の登

録をしてまもない私に、何度も連絡があり、しかも二度の腎移植手術を受けることのできた私は、とても幸運だったと思います。もちろん、その陰には腎提供者のご家族のかたの理解があったことは言うまでもありません。そのためにも私は亡くなったかたのぶんまで、せいっぱい生きようと思えます。しかし、いつ拒絶反応が起こり、透析にもどるかかわからないということも忘れてはけません。

腎移植に限らず、他の臓器移植についても人々に理解の輪が広がって、一日も早く実行に移されることを願っています。

(社団法人腎移植普及会発行
とらんすぶらんと第十八号より)

ブロック紹介

浦河日赤腎友会

海では潮の香り、山ではサラブレットが、かけめぐること日高。

ています。

私達、浦河日赤腎友会の会員は、自然に恵まれたなかで透析を受け

さて、さっそく私達の会を紹介致します。私達の会が正式に発足したのは、昭和六十三年三月でし

た。それまでは、苦小牧つくし会の分会と行うことで活動してきましたが、苦小牧が地理的にも遠いため、なかなか一緒に行事などに参加する機会が有りませんでした。また、会員数も少なかったことから浦河では、特別な行事などは行っていませんでした。

今回、会を発足したのは患者の数が増えてきたこと、病院に対しての要望事項について、会として対応していかなければならないなどで、これからは、一つのブロックとして活動しようとの意見が出され今年三月、苦小牧つくし会、道腎協の承認を得てブロックとして発足したわけです。

現在、会員数は三十名(内C A P D三名)加入率一〇〇%です。人数は少ないですが、結束力は強く、いろいろな行事にも積極的に参加しています。

年間の行事は、新年会、観楓会、一泊旅行が大きな行事です。

特に、観楓会、観楓会のメニューは楽しいですよ。全道の会員の皆さん是非一度遊びに来てくださ

ブロック使い

札幌ブロック

恒例の秋の炊事遠足

毎年、初秋近くに開催する炊事遠足。八月二十八日に昨年と同じ支笏湖湖畔のポロピナイキャンプ場にて行われました。

八月も下旬となると、毎年のように天候に恵まれず、今回も曇天でした。



朝九時、札幌駅北口前に集合して、二台のバスで現場へ向いました。一部の方々にはマイカーで直向ってもらいました。作るメニューは例年通り豚汁とジンギスカンですが、今年は四班に分け、各々が協力して料理を作ってもらい

ました。炊事遠足は、親睦会でありますので、屋外での活動として有意義なものとなります。

食事の合い間、総勢一〇〇名の参加者に何か一個の賞品が当たる様、ゲームを行いました。午後一時、キャンプ場で解散。一時間ほど湖

旭川ブロック

旭川石田病院腎臓病患者友の会 結成十周年記念祝賀会に出席して

旭川日赤腎友会 会長 佐藤 昌夫

去る七月十七日東急イン平安の間を借り切り盛大に行われました。大石実行委員長の経過説明が始まり、まず柳本会長のあいさつがありました。

過去の「生かす透析時代」の苦

しい思い出の数々を語り、今日現在のよな技術進歩と設備の改善、さらに社会の恩恵により「社会復帰の透析」と移り替わり、大変幸せになり喜びをかみしめている事実を語り、その基になっている病院長始め各スタッフの協力に感謝

畔にある遊び場でボート等乗り、楽しく一刻を過ごしました。患者間の連帯をより強くして仲良く前進して行く上でも、ぜひ来年も皆さんで参加しましょう。

(報告 宮本)

を込めせつせつと訴えました。そして共に力を合わせ「今日まで、そして明日から」を合言葉に患者一同一貫となり、協力しあう事を誓い、最後に初代会長故松山氏の冥福を祈り結びました。

続いて石田病院長あいさつがありました。

先生の若かりし頃、今程技術進歩がない時代でしたので、若い患者が腎臓病になり苦しみ、闘いぬく姿を見て、大学病院の協力等を得て研究をし、透析病院として石

田病院を作った暖かい心の開院理由から始まり、患者に対し初代会長が病院の協力で患者会を作った状況経過を語り、患者の「自己管理」が大切で「人生を自分で力一杯生きる」と言う言葉は大変良い言葉で、生きていくと言う事は希望と夢があります。この生きていくと言う実感はすばらしい事であります。しかしその為には努力が必要である事を悟した心情のこもったお話でした。

続く岩崎道腎協会長のあいさつがありました。「明日は我が身に、今日は我が身に」会長自身の心の移り替りから始まり、最近の一例として、会長へある婦人からの投書で、その内容は「欲深い私には人様に差上げる物は何もないが最後の時が来たら、せめて体の一部でも差上げたい」とあったそうです。この事は早速、道新と朝日の社説で取り上げてくれたそうですが、こういう勇氣ある行動の少ない社会の中で、同じ日の記事にデパートの屋上から飛び降り自殺した事が書かれて居り、やるせない気持ちでありました。一方は、死んでも差上げます。一方は、捨て



てしまう、患者自身が一日一日夢を持って生きていく事を思うと、お話しました。そして、難病患者の十年は普通の人の十年と違うと思います。失われた物も少なくなってしまう。結婚、就職等、同病者をはげまし自分をはげまして参りました。しかしそんな中で、それを乗り越えた喜びも大きいと思います。そんな意味で一人でも多くの患者が共に目標に向かって歩みましょう。手を結んだ大きな組織が出来る事が大変意義ある事と思うと言ひ、説得力ある内容でした。

その後、竹谷病院事務長の祝盃

から始まり、スケジュールは進みましたが日本舞踊、郷土芸能の東川羽衣太鼓、バンド演奏と大変楽しくなごやかな内容でした。その中で新しいDrの自己紹介がありました。新しい方が二名おられました。延命性向上による患者の増加と、新しい余病に対する対応へと考え及び病院の心と姿勢を力強く感じました。

途中会場を見廻しますと約一五〇名程の列席があり、このような大きな祝賀会は病院の協力と保護がなければ出来ず、それを裏付けるような話を、私の隣席におられた大西美恵園園長さんのお話から理解出来ました。社会復帰と言っても受け皿になるものは患者には、なかなか有りません。そんな中で石田病院では数多くの会社を作り、患者を採用しているとの事でした。病院長先生は途中バンド演奏に合わせて、若い患者とダンスを楽しんでおられました。二年前、一度お見掛けした時より、大変おやつれの様子でした。御病気をなされたそうで、心身の御苦労が忍ばれ、くれぐれもお身体を大切にされるよう心からお願ひします。

祝賀会の内容を色々書いていながら、私は日頃感じている事を付け記します。

我々は私自身も含め、多くの人々の善意とか先輩者の苦労とかを余りに平然と受けてい過ぎてはいないだろうか。例えば、四十七年以前の透析に掛る自己負担の重みに耐え切れず、殆んどが死んでいった事。これから抜け出す為、四十六年末全国患者会組織が出来、この力を背景に行政にお願いし、やっと医療費無料化が実現いたしました。しかし、この時行動した患者は皆殆んど生きていないという恐い事実があったのです。

最近、透析医療行政は少なからず後退して居ります。だが将来に向って技術的進歩もめざましく、腎移植も若い人々に希望をもてる時代に入り、全国八万人の患者をより多く組織化して、世論形成が少しづつ動かして来て居りますが、さらに患者の努力によって、世論をどう動かせるか協力を得ることが出来るかに掛って居る時だと思ひます。患者会の力の成果がもう一度四十七年のそれと同じようになるように頑張ります。

稚内ブロック

『しじみ狩り』

八月二十八日、稚内腎友会では天塩川へしじみ狩りを行いました。

当日は天気が良く病院前を九時出発、患者六名、家族三名計九名、乗用車二台で出発。十一時、天塩町の鏡沼にて、しじみ取りをし、十二時、近くの旭温泉にて昼食、温泉に入り体を休め、四時に帰宅しました。

毎年一回の行事ですが、次回からは参加者を多くしたいと思っています。(報告 乙竹)

留萌ブロック

恒例のレクリエーションを終えて

我会では今年度も七月から九月にかけて、恒例のレクリエーションを実施しました。今年には幸いにも行われた三つとも非常に天気に恵まれて盛会でした。

このレクリエーションの目的は、



もちろん家族やスタッフ等との親睦と交流ということにありますが、それ以上に、私たちにあって普段の透析生活でたまった精神的ストレスを解消する事にあるのではないかと思います。

まず七月二日に朝里川、小樽、

祝津をまわる一泊二日の研修旅行を行いました。

朝里川では緑と静けさが、小樽では坂道と古さと新しさがミックスした町並み、祝津では水族館とそこらながめる海辺の景観が絶品でした。

年に一回の遠出の旅というこゝとで上りの道中では、言葉もはずみ大変にぎやかでして、ホテルに入ってから入浴や談笑したり、ゲームやカラオケ等など英気を養ってしました。そして下りの道中ではさすがに皆さん疲れたのか椅子にもたれかかっておられました。

七月の二十四日には増毛町の果樹園で前回の旅行に参加できなかった人を中心に、さくらんぼ狩りが行われました。

さくらんぼという事で子たちがたくさん集まりまして、私たちや家族ともども、夏の空の下で、たわわに実ったさくらんぼの木に登ったりし、昼にはジンギスカン鍋に舌づつみをうっておりました。真夏ということですが暑さにはまいりませんが、何分にも子供たちが多かったので非常にさわやかな日でした。そして九月十八日には私たち、



家族・スタッフの他に病院内の看護婦さんや留萌支庁の職員の皆さんも参加されてソフトボール大会が行われました。試合は、各チーム九人づつで勝ち抜きで四チームで行い、全員に賞品が渡るようにと主催者の苦勞もみられました。

皆さん和気合い合いとやっておられました。他の方々はともかく、私たちにあっては体力を試しという意味ではみんな必死で特に決勝戦ではファインプレーや勝負の駆け引きが見られるなど好試合が続きました。

昼には私たち会員が用意したぶた汁を食べました。参加した皆さん

人大変ハッスルされたため、試合後は多少疲れたようですけど、青空の下で非常にさわやかな汗をかいた一日でした。以上駆け足で報告してきましたが、各行事において、これを計画実行した係の人たちの苦心の後が見られました。それに特にソフトボールでは、透析をしながらでもこれだけ走り

苦小牧ブロック

回りプレーできるといふ喜びをみんな感じたのではないかと思えますし、今年参加できなかった人たちもこの喜びを味わえるように、私ら役員も考え計画していきたいと思います。

来年度も是非この屋外のレクリエーションを計画実行し報告できたらと思います。(報告 豊島)

美味しんぼ旅行

松 浦 範 子

私たち、患者十三名、看護婦三名で八月二十七日、二十八日と、一泊の積丹半島の旅、出発は、透析の人もいて、午後二時出発、いつもなら透析後みんな疲れたと言っては休んでから帰る人達も、遊びに行く時は元気です。



室蘭ブロック1

物いそ鍋など、海の幸がいっぱい、皆さん口々に、年に一回ぐらいはいいだろう、明日から食事制限をすればいいなどと、もうみんなのお腹はぼんぼん。とても美味しかったです。その後は皆さんで、カラオケ大会、楽しい、楽しいそれは素晴らしい一日でありました。私たち透析者も、いろいろな制約を

秋の一日を楽しむ

伊達赤十字病院透析患者会

守り、年に一回ぐらい、楽しい旅行をするために、自己管理をきっちりとして生きていて良かった。という楽しい思い出をたくさん作りたいと思います。さて、来年はどこへ行ったらいいのだろうか。それを考えただけで心がうきうきできます。さあがんばろう。

九月十八日、恒例の観楓旅行会は一行三十数名で、今年は登別温泉へと向いました。例年の事ながら先生と看護婦さんに同行して頂き、誠に心強く有難いと感謝しています。幸い晴天に恵まれ、バスガイドさんの説明を聞きながら、登別の新名所である登別新大橋で小休止をして、紅葉には一寸早かったが大自然の景観を心ゆくまで眺めて温泉へと向いました。登別温泉第一滝本館へ入り、一同で記念写真を撮り、みんな楽しみにし

ている福引きをした後、東洋一を誇る大浴場へ行き、檜風呂や露天風呂へ入る人、入浴しながらのんびりと地獄谷を眺めている人など、日頃の透析から解放され、まさに命の洗濯といった、いかにも楽しいものであります。又、部屋へ戻り役員が用意した果物など食べながら歓談するなど、約五時間余り思い思いに自由にくつろぎ、明日への活力を十分に養うことができ、又旅行の目的でもある透析者やその家族との親睦をおおいに深める

ことができたと思います。当日体調が悪くて旅行会に参加できなかった人の為に、役員一同の計らいでお土産を買い、霧にかすむオロフレ峠を通過して帰路に着きました。後日の記念に一同で撮った写真が思いがけなく失敗してしまいとても残念であるが、ともあれ有意義な一日でした。

私達の透析患者会は、発足後二年余りです。レクリエーションを通して透析者と家族も含めた親睦と交流を目的に、春の花見、秋の旅行会、新年会や研修会等を実施しています。

どの行事も役員一同の協力のお



陰で円滑に実施することでき、常々感謝している次第です。又、行事の際の参加者も徐々に増えていきますので、良い傾向だと喜んでいきます。会員数も少しづつ増えており、現在四十三名です。僅かの未加入者も透析患者会の組織の重要

室蘭ブロック2

来年も楽しいレクリエーションを

恒例のレクリエーションが去る十月二十三日(日)に行われました。

これは毎年患者さんが一番楽しみにしている行事の中の一つで、親睦をかね実施されたものです。

さて今年は場所を、どこにしたものかと悩んだ結果、あまり遠くなく、また近くもなく、という意見があり伊達市近郊にある弄日館に決定しました。

当日九時三十分、病院裏に集合。今回は患者さんと家族の方合せて二十名(内四名現地待ち合せ)と昨年に比べるといま一つの盛り上

性を良く理解してもらい入会してくれるよう、役員一同と共に努力をしなければと思っています。今後も和気合い合いで行事を進めていきたいと思えます。

(報告 水口)

新日鉄病院 患者会

りです。

全員揃ったところで(なんと皆んな生き生きした顔、気持ちも皆う温泉なの?)各自、乗用車に分乗し出発……

心配されていた天気もまずまず、最高のレクリエーション日和となりました。

鼻唄まじりです。まず一路伊達へ：今回お世話になる伊達市弄日館は、市民研修目的のため建てられた。最近是一般の人にも開放しているとか(因みに弄日の「弄」とは辞書によると、遊ぶという意味らしい)。



車は国道三十七号線を通り北稀府付近から右折し山道へと向う、ちょうど道立太陽の園へ行く途中にありました。

約四十分程で現地に到着、早速降りて深呼吸空気が実にうまい。前方に雄大に広がる太平洋、裏手に山々が連なりこの時期赤く燃える紅葉と緑色をした松とのコントラストが非常に美しく、またこれから到来する冬の淋しさが複雑に感じられました。

ここで全員入館し座敷へ、ほど良くテーブルが並べられ、まず一休み、お茶を飲みながら幹事さんの挨拶と今日これからの日程を説

網走ブロック

明され、十一時頃昼食、一時からゲーム、のち三時迄自由時間とか。早速持ち込みの食べ物、飲み物が並べられ口にほうばる人、早やばやとひと汗流しに温泉に入る人忙しい。

また今日の楽しみは患者さんからの差し入れて石狩鍋がご馳走されるとか、毎年頭が下がります。(去年は味噌オデン、また来年に期待)

ころ合いを見計ってか「石狩鍋ができたヨ」の声、最高のにおいがしてきました。各自うつわに盛られ、いただきます。うまい、うまいの連発、食欲をさそってか、おかわりをする人もいました。こうして患者さん同志久し振りに顔を合せ、しゃべる、食べる、ゲームをすると、ただ飲み食いだけの感はありませんが、楽しそうにしている姿を見ると、また来年も、という気持ちになりました。帰りは現地で解散、これから紅葉を見に行く家族もいるとか、今回もそれなりの親睦がはかられ幹事も満足しています。

今日は皆さんご苦労さまでした。

(報告 合田)

五地区交流会盛大に催される!

毎年恒例となっている道東五地区(釧路・十勝・北見・紋別・網走)それに釧路から独立した根室地区が加わり六地区が一同に会し

今年、網走が幹事となっておりますので、今までは内容を交換してみようということで「歌謡ショー」を取り入れ、年に一度の交流会を楽しんでいただく、それも一流歌手と言う程まだ全国的には知名度は高くありませんが、網走生れ網走育ち、それに私達と同じ人工透析者であり現在、旭川市でカラオケ教室を開き、生徒数も百人近くに教えるかたわら、歌手活動に力を入れて近々全国盤に出る予定の「郷田二郎」さんをこの故郷、網走で道東五地区の皆さんに少しでも多く名前を知って応援していただきたい意味もあり、企画いたしました。又、郷田二郎さんも「是非五地区交流会に出席させて下さい。ボランティアでよろしうですので、」と言われ開催出来

た次第です。

場所は、オホーツク海を目の前にする景勝地「ニッ岩海岸」隣りは寒流系の魚で有名な「ニッ岩水族館」に近い「ホテルオホーツク荘」で九月二十四日(土)午後六時より開演の予定でしたが、何せ遠方からのお客様の到着が遅れ、六時四十分となりました。

まず始めに出席者全員による写真撮影に入り、当オホーツク腎友



会事務局清水の司会で、五地区交流会の開催を宣言、当会会長原田より挨拶と今回の交流会についての説明があり、当会員年長者である谷畑氏の音頭をとっていただき、会食に入り、皆さんも待ちに待ったご馳走に舌鼓を打ち飲食物も、満足するくらい出ました。

ころ合いをみてアトラクションのNo.1として「カラオケ大会」を始めました。司会は開会宣言の清水によって進行し審査委員は、各地区代表者六名と審査委員長は歌手の郷田二郎氏になっていただき、大会に入りました。各地区より、のどに自慢の八人が、又、飛入りも入り合計九名となり審査に当たった各地区の代表者も真剣に聞き入って採点しておりました。皆さんさすがに自慢するだけに点数を付けるのが大変だったようです。

いよいよ審査発表となり郷田二郎審査委員長より、各出場者の総評価をいただき、各賞授与が行われました。

優勝、三春真智子さん(網走)、二位渋井慶一氏(紋別)、三位木村(奥)さん(十勝)、と郷田二郎特別賞橋本巖氏(釧路)、が受け



他の方には参加賞が渡されました。いよいよ本日のメイン・イベントである「郷田二郎ショー」の開演。

郷田二郎がデビュー曲「慕情十勝岳」の曲で舞台上に登場するや、紙テープ・クラッカーと、ひときわにぎやかに始まりました。曲の合い間にオホーツク腎友会

岩見沢ブロック

秋季レクで、親睦を深めました

中秋の九月二十六日(日)会員、家族、スタッフ一行が会員の運転

する八台の車に分乗し、黄金色に広がる田園風景を見ながら一路南

より花束を郷田二郎氏へ、今後の期待を願い手渡されました。

曲も進み、郷田二郎とデュエットで唄う人もいて、透析者は体力がないとはこの透析者かと思うほど元気なものでした。又、郷田二郎氏の声量もアンプの勢ばかりではありません。

日頃のプロへの情熱と障害者とはわからない健常者と変わらない気力、これは私達も見習わなければならないと思いました。

最後に「郷田二郎氏の今後の発展と、来年も五地区交流会の再会を願って、」オホーツク腎友会副会長七海君がバンザイ三唱をして自由解散となりました。

出席人数合計は七十三名でした。尚、来年の幹事は釧路地区、時期は今年と同じ九月末頃、内容は一年間の課題とすることに決まりました。(報告 原田)

幌レークハウスに向いました。

この日の参加者は、会員十六名、長山透析センター婦長はじめスタッフ七名、家族十五名が午前十時半過ぎに無事目的地に到着、早速



浦河ブロック

「観楓会終わる」

十月二日(日)浦河日赤腎友会観楓会が、えりも町スポーツ公園で行われました。

心配されていたお天気も、さわやかな秋晴れのもと、約五十名の会員のみなさんや透析室のスタッ

屋外ゲートボール場でコート内に設置した五基のゲートを何打で通加できるかを競うゲームに挑戦し、上位入賞者には会より心ばかりの賞品も渡されました。

昼食は全員が広間の和室で、それぞれ持参のお弁当を広げ、熱いブタ汁を食べながらおもい思いに話題に花を咲かせていました。食後には全員が二班に分かれ一対一のバランスゲームが行われ、交互に兵隊一個を並べるたびに大きく揺れる塔に、歓声を上げながら応援を合いました。

今回は出席者も多く楽しい一時を過ごし、午後二時には帰宅の途につきました。(報告 山田)

フが参加しました。

この日スポーツ公園では、えりも町独特の年中行事のひとつになっている「えりも町海と山のフェスティバル」が開催されており、そのなかで行われていた「生たま

「ごキヤッチボール大会」にわが透析室の橋本ドクターやナースのみなさんが参加し、賞品の生たまごをドッサリ獲得しました。

とてもにぎやかなこの度の観楓会でのメニューは、やきとり、石狩鍋、焼きとうきび、焼きいも、焼きイカにつめたーいビールなどなど：

みなさんおいしそうに食べていました。

最後に、この度観楓会を先頭立って活動して下さいました事業部の皆さん、参加者の皆さん御苦勞様でした。



仲間を訪ねて

氏名 庭田 知治
年齢 三十二歳

職業 農業

住所 岩見沢市西川町

一〇六五ノ八番地

透析歴 十二年十一月

通院病院 岩見沢市立総合病院

会役職名 広報、研修局長

家族 両親と三人

一、透析導入までの経過

小学生の頃から腎臓が悪く、病院にかかっていましたが、高校卒業の時に目がかすむようになり、後に血圧が二〇〇以上も上がるなどで入院しました。そして、一ヶ月もしないうちに尿がまったく出ないようになり、腹膜灌流をやりましたが、腹膜炎を起し昭和五十一年一月に血液透析を開始しました。

最初三年くらいは胸部に水がたまるなど、とても苦勞しましたが、今では体が透析というものを覚えたように思います。

二、現在の日常生活はどう過しているか

火、木、土の週三回、五時間透析を受けながら仕事をしています。

三、体重増加はどのくらいか
一日でドライウェイトの二・五%ぐらい、二日で四%ぐらい、で



もたまに増えすぎ注意される事もあります。

四、食事などの自己管理で注意している事は

特別注意はしていませんが、今へマトが少し低いので上がるようにしています。

五、体力維持に対する工夫は

農作業がない時はかるい運動をするようにしています。

六、将来に対する希望は

一日一日を悔いのないように過

ごせたらと思っています。

たまに旅行などをしてみたいです。

七、仲間になりたい事、聞かせたい事はないですか

腎臓が悪く透析など受けている皆さん、一日に一つの目標を立て、それが達成できるようにガンバってみてはどうでしょうか。

透析などに関する医療制度は年々厳しくなっています。

みなさんと一緒にこれからも何事にも夢をもって行きましょう。

投稿

『私の結婚』

小樽市の外科クリニック

藤田 正弘(三十歳)

私は昨年の六月より透析生活に入り一年半余りになります。三haほどの果樹園で、ぶどう・梨・りんご・プラム等を作りながら余市から小樽市の外科クリニックへ月金の週二回お世話になっています。私の腎臓が悪くなったのは高校

三年の夏でした。それまでは、部活動に打ち込み、めいっばい体を動かしていたのですが、尿タンパクが出ていると言われ検査を受けると、すでに慢性化している状態であり、注意しなさいと言われてきました。その後十年近く自覚症

状もないまま過ぎましたが、六十一年頃より悪化しはじめ近い将来人工透析が必要になると言われ、目の前が真暗になり、このまま農業が続けられるのか、まして結婚など思いもよらないことでした。

そうは言っても仕事は続けねばならず、無理が重なり、一年余りのうちに透析をしなければならなくなってしまう。それでも三週間余りの入院の間も病院から仕事に出ることができた状態だったので楽な導入期だったと思っています。

私はそれと前後して、自分の町の町おこしサークルの結成に参加し、劇団の上演、TV局の二十四時間チャリティのイベントを企画したりと、自分の体が弱いということ仲間の中で売りものにして少しひらき直った気持ちで活動していました。そんな中で一人の女性と知り合うことが出来ました。自分より八歳年下ですが、とてもしっかりした女の子でした。

そして農業という厳しい職業のこと、透析のことを話すうちに互いにひかれるものを感じ、つき合っつてわづか半年で結婚までつき進

んでいました。これには、彼女の両親の深い理解があったことをとても感謝しています。

そうして九月三日、仲間達の手づくりで、あたたかい励ましの中、結婚式を挙げる事が出来ました。農業をしながら週二回の透析通いは大変ですが、現在は血圧が若干高い他は検査数値も安定しているので、今は妻となった、美帆と共に食事に気を付けしっかり生き

患者同志が話し合うことが大切

夕張市立総合病院

吉川

守(五十三歳)



私が始めて腎炎と診断されたのは、昭和四十三年九月のことでした。その時は急性腎炎で、当時の夕張炭鉱病院(現在の夕張市立病

ていきたいと思っっています。

私も透析に入った当初は結婚など絶対にはと考えていたし、生活もカラに閉じこもっていました。が、どんどん人の中に入っていくことで解決できたと思います。全道の透析者の方々も出来る限り自分以外の為になにかをすることによって新しい何かをつかめるかもしれせんよ。

院)へ一年六ヶ月入院して一応病状が安定の状態のため退院、当時の職業は北炭平和炭坑内員(探炭員)でしたが発病し、入院、退院後は同炭坑外員(労務課)に転職以後は食事療法及び体力の増強等に専念、合せて漢方薬の服用と二十数年が過ぎました。

その後職場も北炭平和炭坑同じく夕張新炭鉱の閉山により同じ北炭真谷地楓磁へと二転三転、楓磁在

職中に病状悪化、昭和六十二年五月札幌医大附属病院へ入院、即シヤント作成、透析開始となり、現在の夕張市立病院透析科へ転院、一日でも早く職場復帰するよう努力し、同年八月職場復帰した矢先に同年九月同炭が閉山と三度の閉山に遭遇し、この病気のたたかいかも成りの精神力を要すると理解していますが、職場を失い明日からの生活への心労は死刑にも値しました。

現在は離職、雇用保険中にて透析歴一年六ヶ月ですが、現在は夕張市立病院の透析科の皆様にお世話になってます。私が透析に入り一番先に感じたことは、矢張り医療費のほか、これからの生活設計の練り直し等で、医療費の国庫負担は大変感謝の念で一杯です。今更ながら組織の力の偉大さを感じています。又、去る十月二日私達患者友の会での催しにて岩見沢健康ランド行きに参加させて頂きました。その中で、の会長を始めとする諸先輩方々との会食、懇談等々大変楽しく、と共に私のように今だ透析歴の浅い者にとりましては大変楽しく、大いに参

九死一生の記

増子 甫(札幌)



考になりました。矢張り私共透析者は内に籠る事なく戸外に出た方が精神及び気分的にも良いと思います。私は極力戸外に出るように努め、そして透析者同志の意志の疎通が大事だと思いますが……以上簡単ですが私の思いつくままに！

浦河日赤腎友会

小林 康 夫

透析の
辛さを忘れて
水を飲む

夕日見て
沈む心に

明日の我身を
思い浮かべや

八月三日に急に入院することになり、札幌北クリニックで透析を済ませ、午後三時前に札幌北楡病院に着きました。早速レントゲン写真、CT等の検査を行い、翌四日も終日検査の後、五日の十一時半から手術が行われました。麻酔のため手術室に入る直前から終ってICU(集中治療室)に運び込まれるまで全く記憶がありません。「終りましたよ」と先生方に覗き込まれてやっと手術が終ったと分かりました。

その後ICUで十八日間もお世

話になったが、ICUの外は大変だったらしい。妻は手術後に説明を受けたが、虚血性腸炎で腹膜炎を併発し敗血症になって居り、腹腔は膿で一杯で、腸の穴は既にふさがっていて発見されなかったので膿を洗い出し、抗性物質を大量に入れたが非常に危険な状態なのでこの三、四日が「ヤマ」だと知らされました。妻は予想もしなかった事態に愕然としたが、娘の夫が開業医で傍にいてくれたので何かと気強かったらしい。その後これも開業医の妻の兄から、敗血症で助かることは殆んどなく、今が一生に一度の覚悟の時だといわれ万一の場合の葬儀のことまで心積りしていたといえます。

幸い何事もなく数日過ぎたが、ICUの中で人間とは思われない顔色の私を毎日見ているうちに、

今度は妻の方が参ったしまいました。自宅近くの路上で突然目がまわり呼吸が苦しくなっちゃがみ込んでいるところへ親切なタクシィが近くの病院へ運んでくれ、その後当病院に救急車で運ばれてきました。過労による過呼吸症候群ということであったが、二、三日間は私に知らせないよう自宅から来たように振舞っていましたが、私の容態も落ち着いた頃になって入院していることを打明けました。妻は乳癌の手術後三年目に入り、再発を心配しながら定期的に通院の状態であったところへ、今回独りで物事を決断しなければならぬ事態に追い込まれて、苦悩にさいなまれたらうことは察するに余りあります。

今、退院してつくづく思ったことは「健全な精神は健全な肉体に宿る」ということである。楽天的性格のせいか死にかけているとは毛頭考えなかったが、身体が思うように動かず、目を開けて話すことが困難で、すぐ目を閉じてしまいが、また物事を考えることも億劫でひたすら眠りたかった。極限状態とはこんなものかと今になって

思います。

今ひとつは多くの方々の力で九死に一生を得たことであります。入院について娘夫婦が奔走してくれました。米川先生はじめ多くの先生方の懸命な努力によって手術は成功しました。北クリニックの今院長は毎日来て診て下さいまし

透析者の快挙

とかく透析者には暗い話題が付きまとうものですが、この度私たちのグループから明るい話題が持ち上がりました。透析者が結婚いたしました。

そして多くの同僚から祝福を受けたのです。本人の喜びは勿論のこと、両親を始め、肉親の方々、友人知人の方々のお喜びは如何ばかりかと推察されますが、それにもまして私たち透析者にとって希望に満ちた明るい話題として心く感ぜられました。

ヒーローは余市町在住の農村青

た。

過般NHKテレビで

「逝くときは

露のこぼれる如きよし」

という句を見たが、このように枯れた心境にはなれそうにもないので、世俗的に生き通して少しでも社会にお返しをしたいと思えます。

津田嘉郎(小樽)

年で昭和三十三年生れの三十歳、明るく真自面で仕事熱心な好青年です。一方新婦となられた女性は、余市市に生まれて育った昭和四十二年生れの二十二歳、余市協会展院事務室に勤務する活発で明朗なスポーツ好きの才嬢です。当分の間は共働きをすとの事です。お二人は余市町の青年グループ「志立波」の活動に参加し、この縁で知り合い将来を誓ったものです。この青年グループは演劇を通じて、活発なグループ活動を行いながらボランティア活動にも積極的で、

お二人は熱心にこの活動に参加し、次第にお互を確め合って行ったものと思われれます。去る九月三日の佳き日に披露の席上で、ご本人は透析者として此の日を迎えられた感激を涙ながらに吐露すると共に、多くの方々の協力によって今日喜びを味わうことが出来たことを感謝し、透析者といえども何んら臆することなく精いっぱい生きて満足ゆく人生を送りたいと決意を

難病連函館支部結成

十周年記念の集い開かれる

杉田正博(道南)

難病連函館支部が結成されて十年がたち、その記念の集いが九月二十五日に函館山ロープウェイ展望台のイベントホールで開かれ、道南腎協からも四十八名が参加しました。

当日は、雲りのち雨というあいにくの天気にもかかわらず二百五十名程が集まり、ロープウェイ山

のべ、満場の出席者の感激を呼びました。

多少の不安を意とせず、何事にもチャレンジするその心意気こそ私たち透析者に、必要ではないでしょうか。お二人のご結婚を心からお喜び申し上げると共に未永く順調な透析生活を送られ、お幸せなご家庭を築かれ私たち透析者の希望の星になられる事をお祈りいたします。

麓駅で受付後、各人一二五人乗りという大型ゴンドラで空の散歩を楽しみながら函館山山頂に到着。十時三十分からの集会にのぞみました。

集会は、第一部が記念式典で、難病連函館支部佐藤氏の司会で進められ、まず函館トロイカ合唱団(十名)の①大空に飛べ、②津軽

平野、③百万本のバラと美しい歌声による激励が始まり、近江忠難病連函館支部長が「十年前の雨の日曜日に患者九十名でスタートした会が今では約八百名という大きな集まりとなった、我々が集まり活動することにより、地域の医療、福祉の向上に大きな役割を果たしていることに自信をもって生きていこう」とあいさつし、続いて函館市長（代理）、渡島保健所所長より激励やお祝いのあいさつを受け、さらに岩崎薫道難病連代表理事から「私達は、障害というハンディをもつことにより、失ったことも多い半面、得られたものも多



くある。同病者を励まし、自らも励ましてつらさを乗り越えていくからこそ喜びがある。私達は、すべての人々が安心して暮らしている社会づくりに参加しているのだ。福祉と医療が充分みだされる社会づくりには、まだまだ長い道のりがあるが、皆が一つになって着実に歩み続けなければならない」との挨拶があり、来賓、ボランティア、メッセージ、祝電の紹介と続き、その後、司会者の解説で結成後の医療講演会、レクリエーション大会等着実に歩んできた十年間の歴史をスライドにより振り返り、次に患者、家族を代表し、こぼと会（ダウン症家族会）と、そして道南腎協中野会長が「腎バンクのキャンペーン」等患者自身が街頭にたち啓蒙、宣伝している実態である。腎不全患者の根本治療である腎臓移植促進のための立法化等、施設の充実拡大も含め行政面の取り組み強化をお願いしたい」とこと訴え、最後に集会アピールを讀み上げて第一部を終わりました。

一時間の昼食休憩後、午後からは第二部、ボランティアによるアトラクション、ゲームで盛り上が



り、まず「きぬたの会」による勇壮な太鼓が始まり、レクリエーション指導クラブによる楽しいゲームや歌、函館マジッククラブによる巧妙なマジック、そして江差もちつきばやしと続き、チビッコによる飛び入りのもちつきもあり、つきたての餅が会場内にふるまわれ、また来年のレクリエーション大会での再会を誓い閉会し、楽しい思いをいっぱいにして下山しました。



図書の紹介

- 透析生活マニュアルー血液透析、CAPD・腎移植ー（平沢 由平監修）B5判160頁 定価1,300円
透析から腎移植、さらに透析者のための役立つ制度なども載った大変ためになる1冊です。
- 福祉制度のしおり 全腎協発行 B5判70頁 定価500円
腎臓病患者のために、社会保険の制度から福祉制度までまとめた1冊です。

〈お申し込み、お問い合わせ先〉

北海道腎臓病患者連絡協議会

札幌市北区北35条西5丁目1番10号AMS南麻生308号 TEL 011-747-0217 FAX 011-747-0217

病苦乗り越え初の個展

— 札幌・白石の坂梨寿美子さん —

人工透析受け筆とる

絵画仲間の協力で実現

十五年間も人工透析を受け、病氣と闘いながら絵画教室に通って絵を描き続けている女性が、仲間の温かい励ましに支えられて、二十一日から札幌市内で初の個展を開いている。「絵を見るたび、苦しかった手術の思い出や、歯を食いしばって教室に通った記憶がよみがえる」という作品は、そのまま作者の生きるあかしとして、訪れる人々の胸を打っている。

この女性は、札幌市白石区厚別西三ノ一、坂梨寿美子さん（三七）十八歳の時、慢性腎（じん）炎が悪化し、生死の境をさまよった。初めて人工透析を受け、医師から「あと三年、生きられれば良い方だ」と宣告された。この時、同居していた兄の長女の添い寝をしながら、「この子に忘れ去られないように、何かを残したい」と決意し、小さいころから好きだった絵を描くことを思い立った。



作品「女」の前に、砂田さんの祝福を受ける坂梨さん(左)

人物や果物題材の33点

週三回、四時間の人工透析と厳しい食事制限。そのうえ、肝臓と胃かいようを患い、その一方で人工血管の埋め込みをするなど、坂梨さん

初めて市内の絵画教室に足を運んだのが五年前。そこで十数人の絵画仲間と師匠の砂田友治さん（五七）に出会った。「透析が終わると、マラソンでゴールした時のよう」と話す坂梨さんは、週一回の教室も満足に通えず、途中で具合が悪くなり、引き返すこともしばしば。

絵画教室では昨年十一月、開講六周年を記念し受講生全員が作品展を開くことになったが、仲間から「この機会に、ぜひ坂梨さんの個展を」という話を持ち上がった。休みがちな坂梨さんに代わって会場の準備を進めたり、顔縁を持ち寄り絵の配置を決めるなど、仲間の惜しみない協力で、初の個展が実現した。師匠の砂田さんは「筋がよく、これまで仕上げた約四十点の作品は、どこへ出しても恥ずかしくない」と話し、診察してきた市立札幌病院の片岡是充副院長（六〇）も「人工透析患者は道内に三千五百人いるが、くじけずに十五年も続けている人は少ない。苦痛をはねのけて絵を描き続ける精神力は見事です」と個展を心から喜んでいる。

出品作品は、人物や果物を題材にした三十三点。

編集後記

■余市の藤田さん、ご結婚おめでとう。

会員の皆様の明るい話題を編集部ではおまちしています。

■今年も一年終えようとしていきます。
(鈴 木)

各施設の役員、幹事の皆さん本当にお疲れ様でした。

幹事の方々が心なごむ時は、会員の方にねぎらいの言葉をかけていただいた時かもしれませんね。良いお年を！
(村 本)

■十月の街頭キャンペーンも今年で八回を数え、無事に終了参加者の皆様大変お疲れさまでした。

やはり腎提供者を増加させるには、まず、腎移植を希望する本人の家族が、そして自分のまわりから積極的に腎登録を始め、それから他人様にお願ひするのが本当ではないでしょうか。

■今号は、原稿の集りが大変良く編集委員一同大変喜んでいきます。次号も一層内容の充実した機関紙にしたいと思えます。
(堀井)

第2回 道腎協企画国内旅行

青い海・自然の宝庫沖縄の旅

1989年4月出発 5泊6日 ￥147,000

4月11日(火)	千歳空港 9:20 → 那覇空港 14:00 → ホテル	食事	昼	
4月12日(水)	沖縄南部観光(大型バス) → 透 析 → ホテル	食事	朝・昼	
4月13日(木)	終 日 自 由 行 動	海岸のホテル	食事	朝
4月14日(金)	沖縄中北部観光(大型バス) → 透 析 → 海岸のホテル	食事	朝・昼	
4月15日(土)	終 日 自 由 行 動	ホテル	食事	朝
4月16日(日)	ホテル → 那覇空港 8:25 → 千歳空港 13:25 解 散	食事	朝・昼	

● 受 付 --- 2月末迄 定員(30名)で締切

● 申し込み詳細は --- 道腎協 ☎ (011) 747-0217
FAX (011) 747-0217

■ 主催

日通旅行

事務局から

寄附金・寄贈品のお礼

寄 附 金

○ 小樽で、透析療養中でありました、故宮下政子様のお遺志により、小川徳次様から金五万円を会に、ご寄附いただきました。

○ 石井典子様より、金一万円のご寄附をいただきました。

○ 清水フサ様より、金一万円のご寄附をいただきました。

寄 贈 品

○ 日立エレベーターサービス株式会社の佐藤課長様より、ワープロ一式ご寄贈いただきました。
○ 佐藤繁様より、ファクシミリをご寄贈いただきました。

以上、ご厚意に感謝し、会の皆様に報告申し上げます。

道腎協元役員のご逝去について

早坂 要氏 (道腎協元幹事)

十月十七日、心不全のため逝去されました。透析歴、十二年五

ヶ月、五十五歳でした。

本村 升平氏 (道腎協元幹事 苦小牧つくし会副会長)

十一月四日、腹膜炎より心不全にて逝去されました。透析歴、十四年、六十歳でした。

水澤 秀一氏 (道腎協元幹事)

十一月十八日、脳溢血にて逝去されました。透析歴、十一年十一月、五十六歳でした。

熊田 誠氏 (道腎協元幹事)

十一月二十一日、心不全にて逝去されました。透析歴、十三年、四十五歳でした。

早坂さん、水澤さんは釧路で、本村さんは苦小牧で、熊田さんは旭川で、長年にわたり患者会活動にご尽力戴きました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

お知らせ

年末年始の休業日について

十二月二十九日より、一月四日まで事務局は年末年始の休業となります。一月五日からは平常通りとなります。

発行所

北海道身体障害者団体 期刊行物協会 神原義郎
札幌市北区北十三条西一丁目

頒価三百円